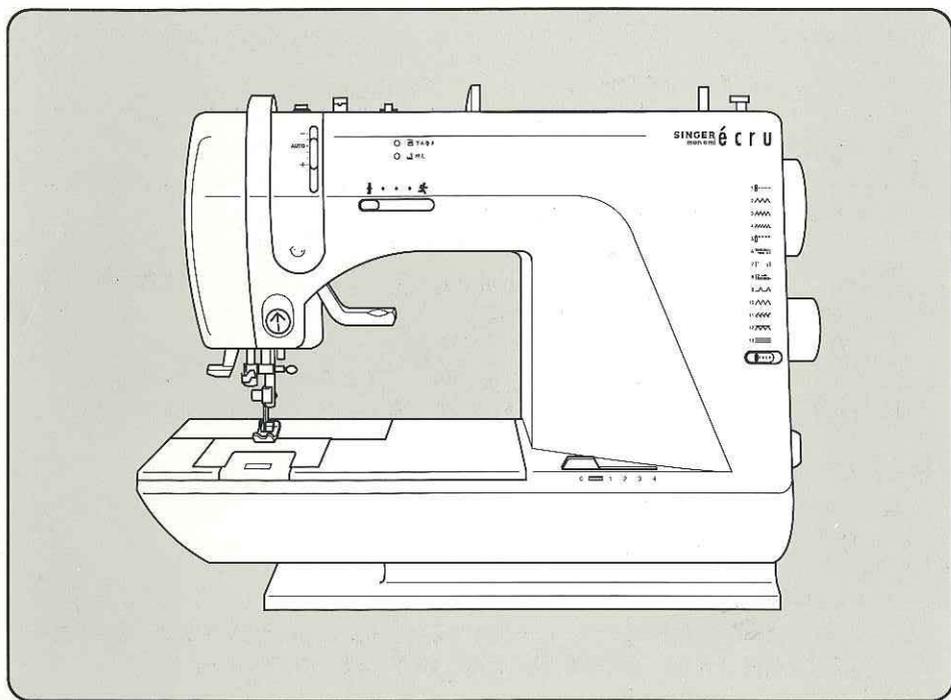


SINGER

mon ami é c r u

使用の手びき

型式：1860



このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

monami é cr u 1 8 6 0

このたびはシンガーミシンをお買い上げいただきましてありがとうございました。このモナミエクリュー1860型はホームソーイングに最適な新しいタイプの電子ミシンです。このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。「使用の手びき」は保証書と共に大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



警告：感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。



注意：感電、火災、ケガの原因となることがあります。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作時は、スベリ板、面板などのカバー類を閉じてください。
3. ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針、はずみ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。
4. まがった針は、ご使用にならないでください。
5. 縫製中に無理に布を引っ張ったり、押したりしないでください。
6. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
7. 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
 - ・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)
 - ・使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - ・原則として、上糸、下糸を交換するとき。
8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または各地区「お客様相談係」にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。
 - ・正常に作動しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
9. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

安全にご使用いただくために

ミシンの仕様

定 格 電 圧	1 0 0 V
消 費 電 力	7 5 W
周 波 数	5 0 H z / 6 0 H z
ラ ン プ 定 格	1 5 W / 1 0 0 V
寸 法	幅 : 3 9 6 m m × 高 さ : 2 9 2 m m × 奥 行 き : 1 7 6 m m
重 量	8 k g

ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。

シンガーは皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観デザインまたは、付属品を変更することがあります。

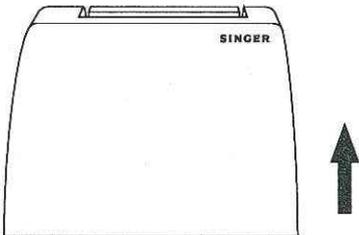
Copyright © 1995 THE SINGER COMPANY
All Rights Reserved Throughout The World

もくじ

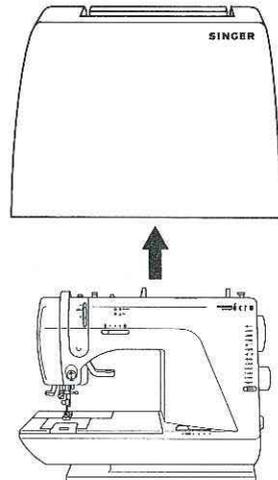
	(頁)		(頁)
安全にご使用いただくために・・・表紙裏		6. いろいろな縫いかた・・・	20
このミシンの仕様・・・	1	●ふちかがり縫い（たち目ががり）・・・	20
1. 各部のなまえとはたらき・・・	3	●まつり縫い（ブラインドステッチ）・・・	21
2. 付属品・・・	4	●ボタンホール縫い・・・	22
3. 電源を入れましょう・・・	5	●伸縮縫い・・・	26
●コード・・・	5	●ファスナーつけ・・・	27
●スイッチ・・・	6	●フリーアーム縫い・・・	28
●スピード調整・・・	6	7. ミシンの手入れ・・・	29
●スタート・ストップ・・・	6	●掃除と注油・・・	29
4. 縫う準備をしましょう・・・	7	●ボビンケースのはずし方と入れ方・・・	30
●下糸巻き・・・	7	●電球の取りかえ方・・・	30
●ボビンのセット・・・	8	8. こんなときには・・・	31
●上糸のかけかた・・・	9	シンガーミシン純正部品のご購入方法・・・	36
●糸通しの使いかた・・・	10		
●下糸の引き上げ・・・	11		
●針の取りかえかた・・・	12		
●押えの取りかえかた・・・	12		
●縫い模様の選びかたとその用途・・・	13		
●針と糸と布地の関係・・・	14		
5. 基本縫い・・・	15		
●直線縫い・・・	15		
●糸調子の取りかた・・・	17		
●こんな場合は・・・	18		
●ジグザグ縫い・・・	19		

ミシンカバー

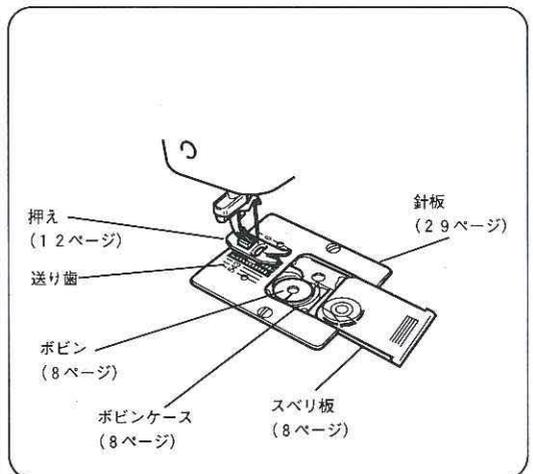
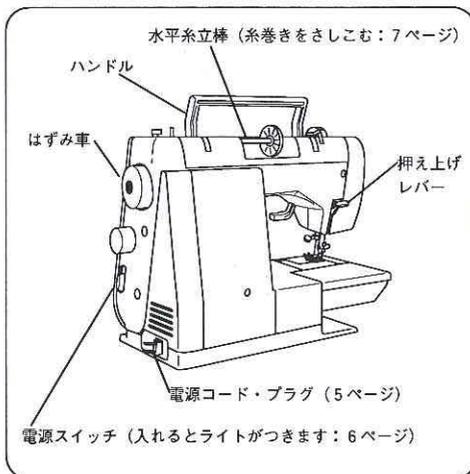
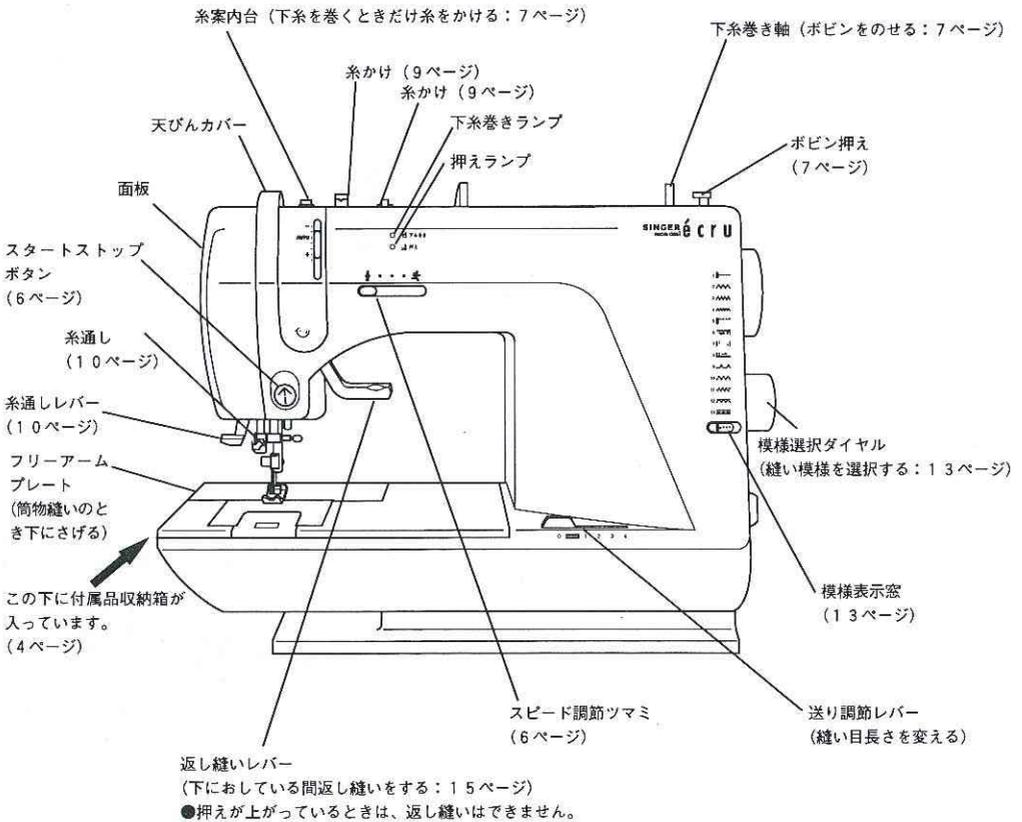
●まずミシンカバーを上にあげて取ります



●ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。かぶせるときは、ハンドルを立ててください。

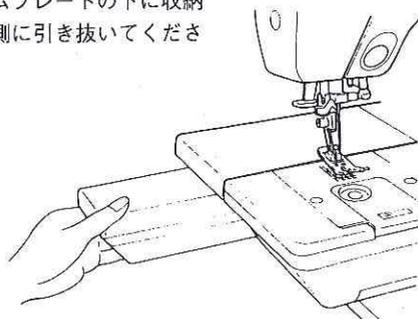


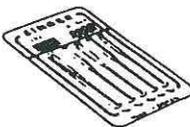
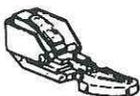
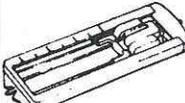
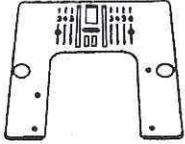
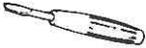
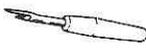
1. 各部のなまえとはたらき



2. 付属品

付属品箱はフリーアームプレートの下に収納されていますので、左側に引き抜いてください。



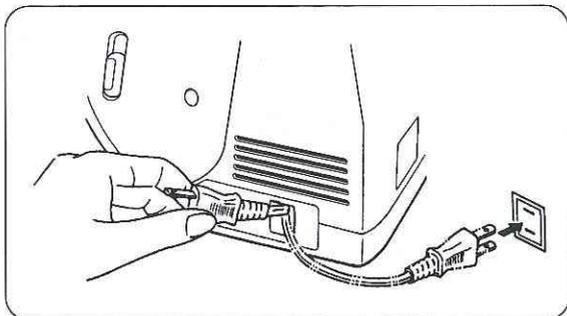
<p>ジグザグ押え</p> 	<p>針パック (5本入)</p> 	<p>ファスナーつけ押え</p> 	<p>ボタンホール押え</p> 	<p>専用ボビン</p> 
<p>ジグザグ用針板</p>  <p>この2つはミシンについています</p>	<p>一般用針 11番、14番、16番</p>  <p>ニット用針 (黄色) 11番、14番</p> 	<p>ふちかがり押え</p> 	<p>糸巻き押え (大) (小) ミシンについています</p>  	<p>ねじ回し</p>  <p>シームリッパー</p> 

3. 電源を入れましょう

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために；

ミシンを使用しないときは、必ず電源コードプラグをコンセントからはずし、また電源スイッチを切っておいてください。

- 電源コード・プラグを引き出し、コンセントへさしこみます。



⚠ 警告：感電、火災を防ぐために；

コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤マーク以上引き出さないでください。黄色マークが出たら、間もなく赤いマークです。

- コードをしまうときは、コードを少しひっぱって、はなしてください。

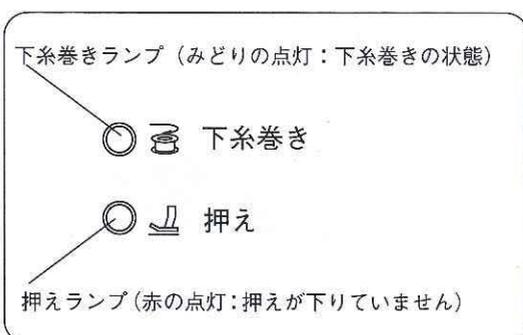
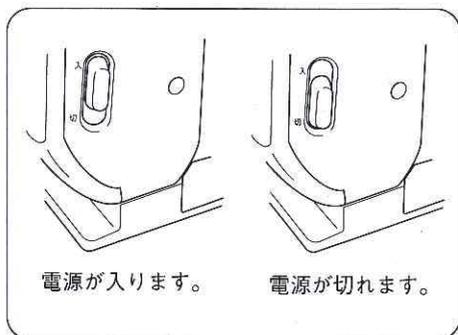
●ミシンの始動

電源スイッチを入れると、ミシンのライトがつき、押え上げレバーを下げてスタート・ストップボタンを押すとミシンがゆっくり動きはじめます。

(押えのランプが、赤点灯しているときは、スタート・ストップボタンを押しても、スタートしません。)

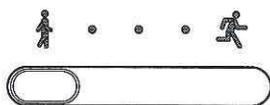
1. 電源スイッチを入れましょう。

(ライトがつきます)



2. ミシンのスピード調節ツマミをセットしましょう。

●お望みのスピードを選んでください。

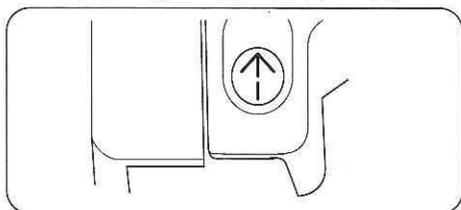


おそい → はやい
だんだんはよくなる

●縫いながらスピードを調整できます。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

3. スタート・ストップボタンを1度押すとスタートし、もう一度押すと止まります。(ぬい始めはゆっくり回ります。)



●万一、裁縫中にミシンが止まりモーターがうなるようなときは、電源スイッチを切ってください。

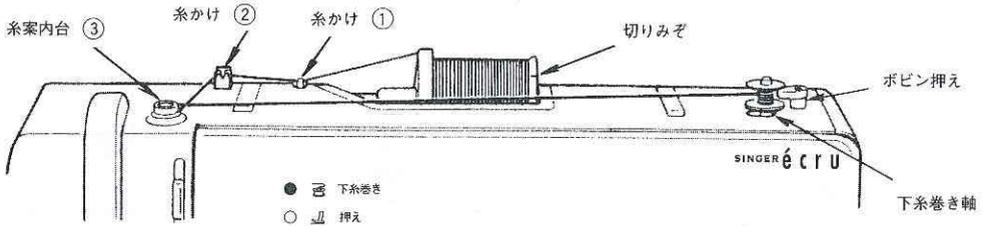
⚠ 注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

6 電源を入れましょう

4. 縫う準備をしましょう

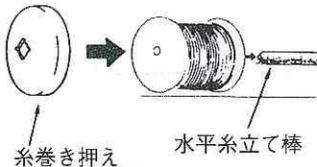
下糸を巻きましょう

(シンガー専用ボビンをお使いください)

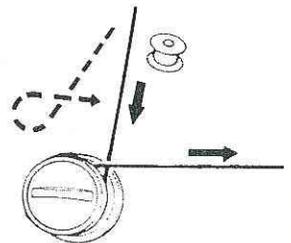
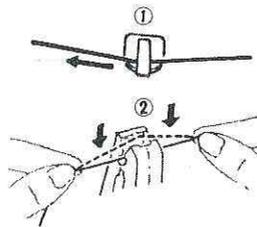


●下糸巻き軸を右に押しつけると、下糸巻きランプがみどりの点灯になります。

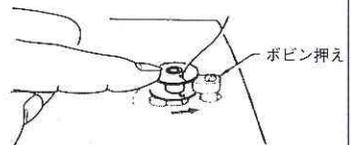
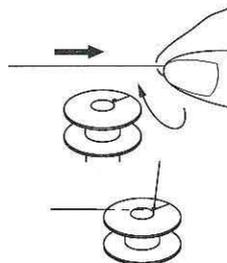
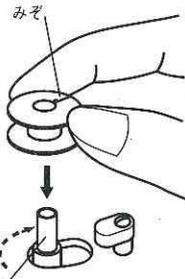
1. 糸巻きを糸立て棒にセットします。
2. 糸かけ ① と ② に糸をかけます。
3. 糸案内台 ③ へ図のようにかけます。



糸巻きに切りみぞがあるときはそれを右側にして糸立て棒にさしこみ、糸巻き押えでしっかりおさえます。(切りみぞが左側になると糸切れの原因になります。)



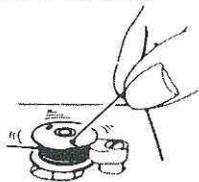
4. ボビンケースからボビンを取り出し、みぞを上にして図のようにボビンを持ち、下糸巻き軸にさしこみます。
5. 糸案内台からボビンの向こう側に糸を導き、下からかけます。これでみぞに続く穴に糸が通りましたので糸はしを2~3 cm引き出しておきます。
6. ボビンを右に押しつけ、ボビン押えに固定します。



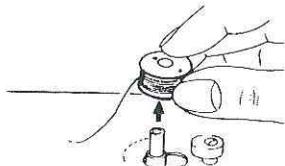
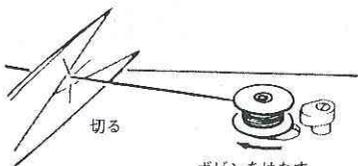
下糸巻き軸

下糸を巻きましょう (つづき)

7. 右手で糸の先をしっかり持ってミシンを運転して巻きはじめます。少し巻けたら糸はしを切りすて、巻きつけます。
8. 巻きがおわったら、ミシンをとめ、ボビンを左へおしてボビン押えからはなし、糸を切ります。
9. ボビンを糸巻き軸からはしずします。



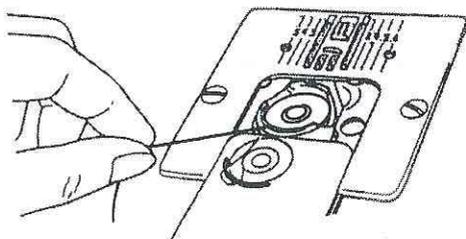
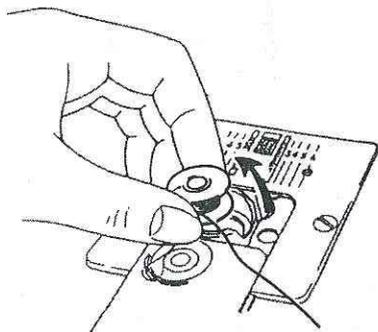
糸が適量巻けるとボビンの回転は自動的にとまります。



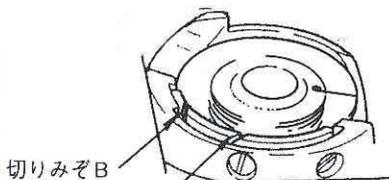
ボビンをセットしましょう

(ボビンのみぞは上に向けて入れてください)

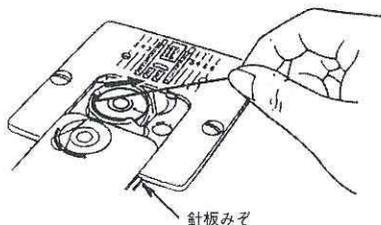
1. 糸はしをボビンから10cmほど引き出しておき、ボビンが矢印の方向に回るようにしてボビンケースに入れます。
2. ボビンを軽くおさえ、糸をボビンケースの切りみぞAにかけて左にひっぱり・・・



3. さらに切りみぞBにかけます。
●ボビンはボビンケースの中で左回転します。



4. 糸を矢印の方向にたおしてすべり板をしめます。

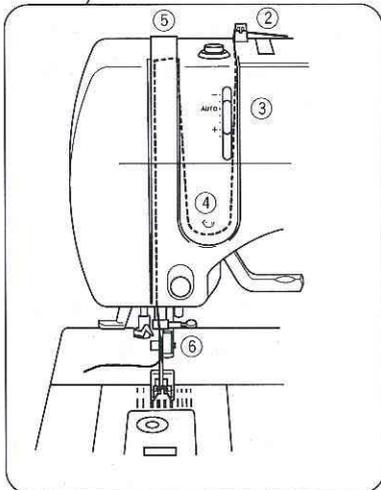
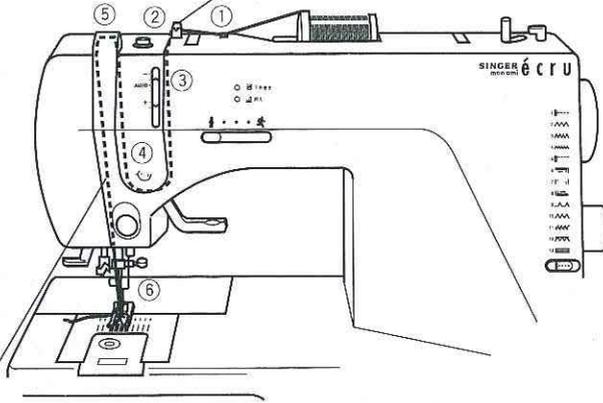
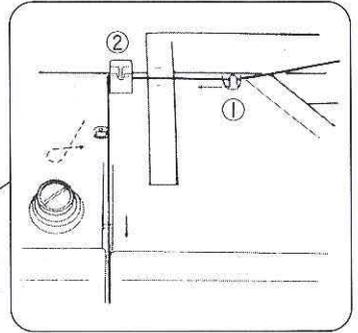


- すべり板が外れた時は、針板のみぞに合わせて、そのまま平らに入れてください。

上糸を正しくかけましょう

上糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。
押えは上げておきます。

糸巻きの糸を図の ① ~ ⑥ の順に正しく
かけてください。



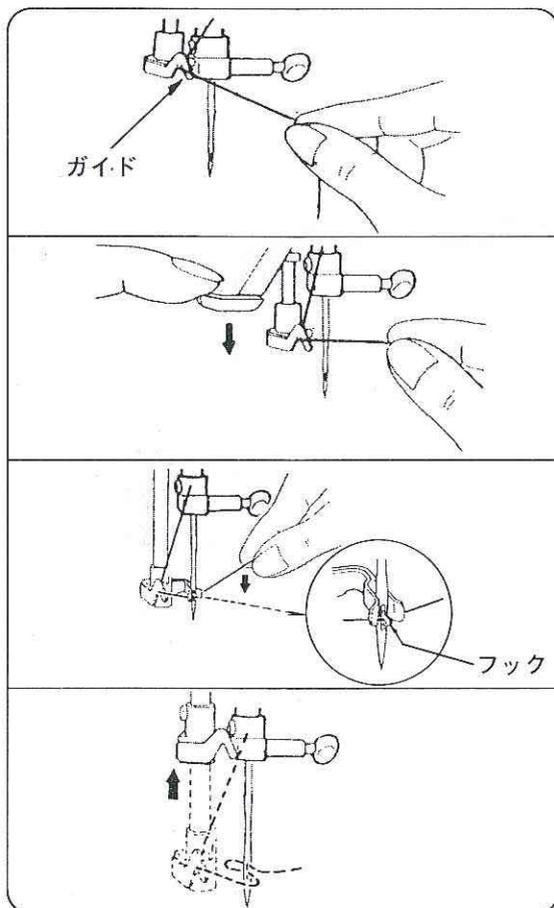
針穴には前から後ろへ通して、糸のはしを
10センチほど引き出しておきます。
(糸通しを使用する場合は10ページをご参
照ください。)

●糸のかけかたがまちがっていると縫えませんから正しくかけてください。

糸通しの使いかた

糸通しを使うときは、電源スイッチを切ってください。

針を一番上にあげ、押えを下げておきます。



1. ガイドの内側から糸をかけます。

2. 糸通しレバーをまっすぐ下にいっ
ぱいにおろします。

3. 針にそって糸を下からあて、フック
にかけます。糸を手前にかるく
引き、糸がかかっていることを確
認してください。

●糸通しが回転し、フックが針穴を
通ります。

4. 糸はしをかるく持ちながら糸通しレ
バーを離すと、糸が針穴に輪になっ
て通ります。

!注意：ケガ防止のために；

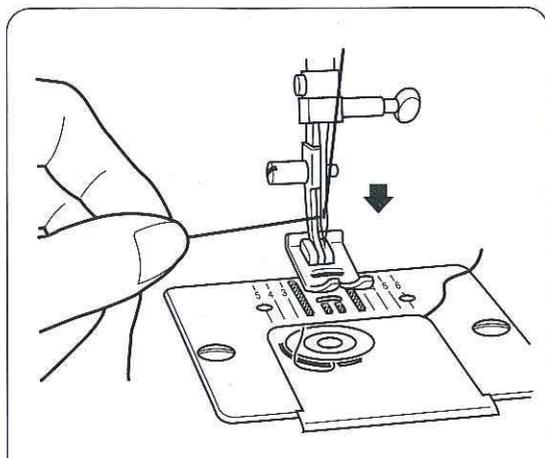
●糸通し使用中は、はずみ車を手で回さな
いでください。

●ミシンが動いているときに、糸通しレ
バーは、下げないでください。糸通し装
置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケ
ガの原因となることがあります。

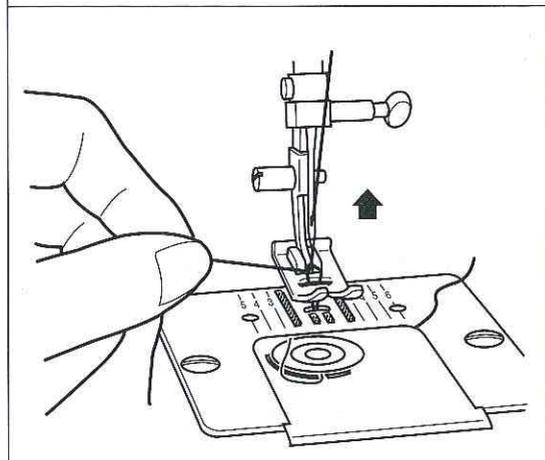
●糸通しが使用できる「針と糸の太さの
組み合わせ」は表をご覧ください。

針	糸		
11番	60番	80番	100番
14番	50番	60番	80番
16番	50番	60番	

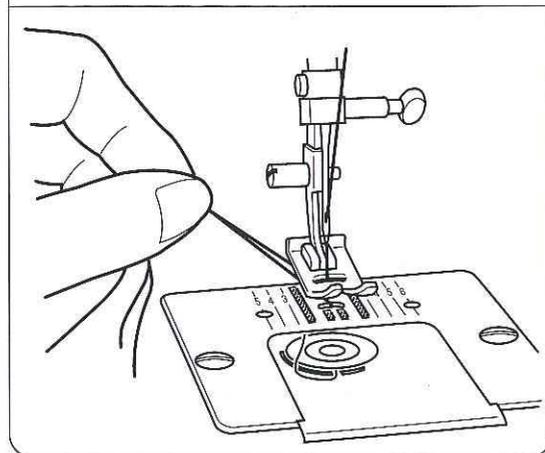
下糸をひきあげましょう



1. 上糸のはしを左手でかるく持ち、はずみ車を手前に一回転させます。



2. 上糸をひきあげれば下糸の輪がついてでできます。

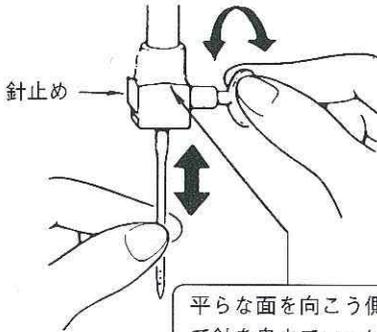


3. 上糸と下糸をそろえて押えの下からうしろ側へひきだします。

針の取りかえかた

! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

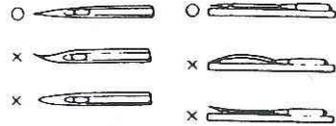
- ① 針棒を一番上にあげる。 ② 針止めねじをゆるめ、針を下に抜きます。



平らな面を向こう側に向けて針を奥までいっぱいさしこみ、ねじをしめます。

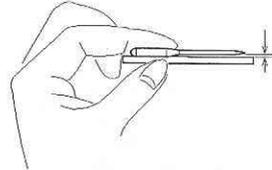
! 注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取りつけ前に針の先をたしかめてください。

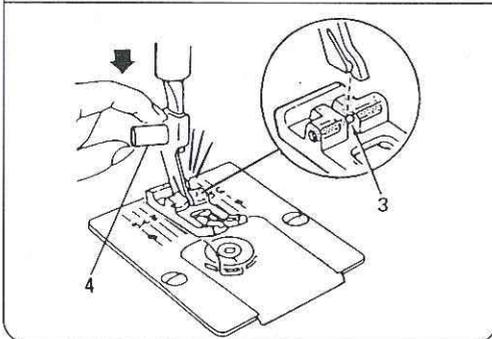
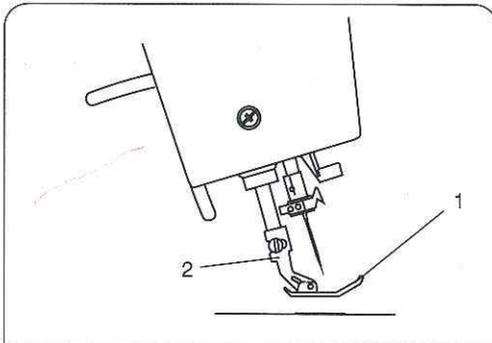


〈正しい針の調べかた〉

針の曲がりを見るには、針板など平らな物の上におき、明るいところですかしてみるとき、針の下側のすきまが針先まで平行に見えるのが良品です。



押えの取りかえかた



! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

〈取りはずすときは・・・〉

- 針と押え上げレバーを上へ上げます。
- 押えの先〔1〕を指で上へ押しと・・・
- 押えがホルダー〔2〕からはずれず。

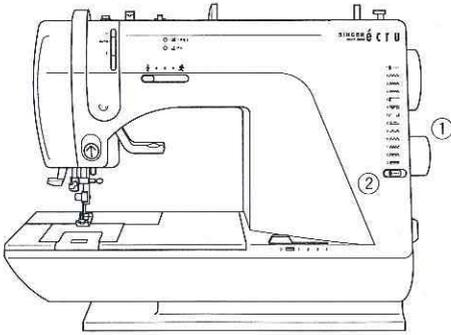
〈取りつけるときは・・・〉

- 押えのピン〔3〕がホルダーの真下にくるように押えを置き、・・・
- 静かに押え上げレバーを下げ、ホルダーのみぞとピンをあわせた後押え止めねじ〔4〕を下へつよく押しとカチンとはまります。

! 注意：ケガ防止のために；
押えホルダーは押え止めねじでしっかり締めつけてください。

縫い模様の選びかたとなまえをおぼえましょう

模様選択ダイヤル ① を回して、お望みの模様を表示窓 ② に表示させます。



⚠ 注意：ケガ防止のために；
 模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて針を布地から上げてください。
 (針が折れ、ケガをする原因となることがあります)

模様	直線縫い	基本ジグザグ			はし縫い	ブラインドステッチ	点線ジグザグ	ボタンホール			ファゴディングステッチ	オーバーエッジステッチ	直線ストレッチステッチ
模様選択番号	1	2	3	4	5	9	10	6	7	8	11	12	13
用途	普通の直線い	普通一般のジグザグ縫い、裁ち目がかり、アップリケ、ボタンつけなど			ピンタック、はし縫いなど	まつり縫い	裁ち目がかり、つくり縫い、合わせ縫い、レースつけなど	ボタン穴かがり			ファゴディング、伸縮レースの縫いつけ、ニットやトリコットなどはぎ合わせなど	伸縮地の裁ち目がかりや緑仕上げ、はぎ合わせなど	丈夫な直線縫い、ズボンの股上や股下、ポケットつけなど
ジグザグ幅(固定)mm	—	5	3.5	2	—	3.5	5	—			5	5	—
送り調節レバー	4 から 0 まで調節可												4
スピード	お望みのスピード										中速以下に		

針と糸と布地の関係

きれいに縫うためには下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。
 なお、上糸と下糸は普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類	糸の番号	針の番号	縫い目長さ (直線縫い)
●薄地——薄地ジョーゼット、オーガンディー、ボイル、タフタ、絹布など。	綿 80～100 絹 60～80 化繊糸 80～100	9～11番	1.5ミリ
●普通地——ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、一般服地など。	綿 50～80 絹 50 化繊糸 50～80	11～14番	1.5～2ミリ
●厚地——ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿 30～50 絹 50 化繊糸 30～60	14～16番	2～4ミリ
●伸縮性の布地——ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	綿 50～80 絹 50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	1.5～2ミリ

●直線縫い以外の縫い目長さについては、それぞれの項をごらんください。



注意：ケガ防止のために；

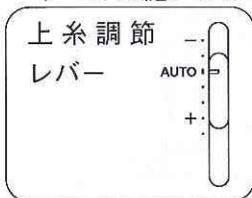
針は家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

●針の取りかえかたは、12ページを参照ください。

5. 基本縫い

●直線縫い

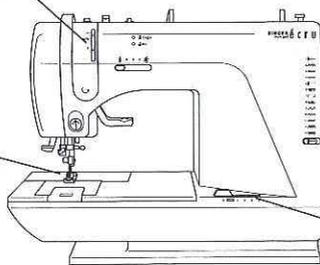
すべての縫いかたの基本です。正しい使いかたをよくおぼえてください。



上糸調節レバーの調節については17ページをごらん下さい。



ジグザグ押え



模様選択ダイヤル
 ダイヤルを回して①---(1)または②---(5)模様を表示窓に表示させます。

送り調節レバー
 レバーを左右に動かして1から4の間で縫い目長さをきめます。



注意：ケガ防止のために；

布地は、送り歯の働きによって自然に送られます。無理に引っ張ったり押ししたりせず、手を添えるだけにしてください。

〈縫いかた〉

1

上糸と下糸を押えのうしろ側にひいておき、返し縫いの分だけ手前に布地をおきます。

2

押えを下げ、返し縫いレバーを下に押ししている間、返し縫いをします。返し縫いレバーをはなすと止まります。

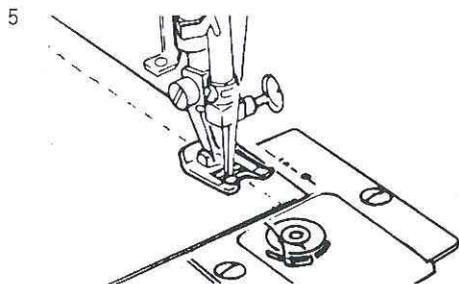
3

スタート・ストップボタンを押してスタートさせます。手は、布にかるくそえるようにします。

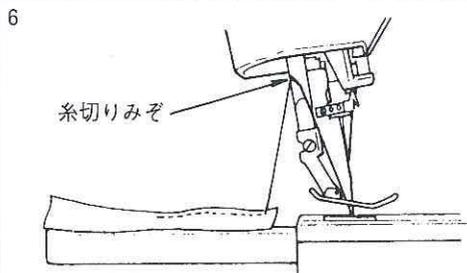
4

縫い終わりまでしたら、返し縫いレバーを下に押し、返し縫いをします。返し縫いレバーをはなすと止まります。

〈縫いかた〉(つづき)



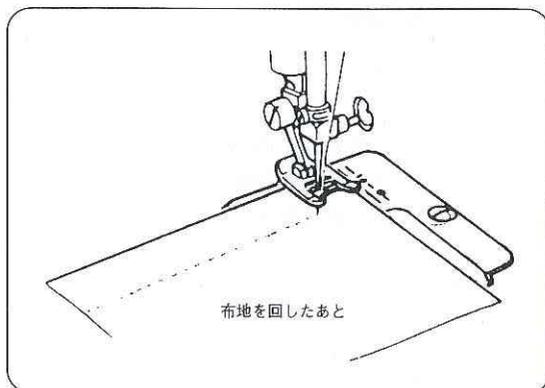
返し縫いをしないときは、スタート・ストップボタンを押して、ストップさせます。



針と押えを上げ、布地をうしろにひいては
ずし、糸切りみぞで糸を切ります。

〈角縫い〉

布地のはし手前で、スタート・ストップボタンを押して、ストップさせ、はずみ車を手で回して、針を布地にさしたままにし、押えを上げて布地を回してから押えを下げて縫い始めますと、角縫いができます。

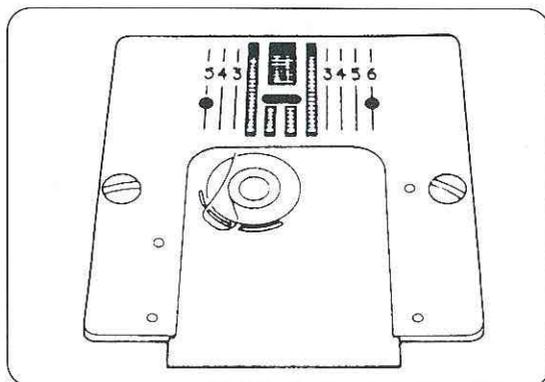


〈まっすぐ縫うには〉

ガイドラインの利用

布地のはしを針板のガイドラインに合せて縫います。

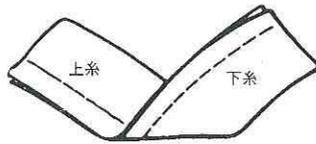
数字は針からの距離を示しています。たとえば布はしから1.5cmのところ
に縫いたいときは布はしを5の線に合せて縫います。



〈糸調子の取りかた〉

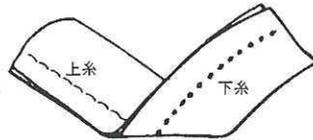
このミシンは、上糸調節レバーを”AUTO”の位置に合せば、通常のホームソーイングに合った糸調子が得られるようあらかじめ調整されています。どうしても糸調子が合わないときは、下記を参考にして調整してください。

○正しい糸調子・・・・・・・・



上糸と下糸が同じに見える。

×上糸が弱すぎると・・・・・・・・



縫い目がゆるんで見える。
上糸が裏に出る。

上糸調節レバー

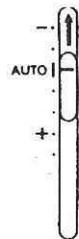


レバーを”+”の方に動かして糸調子を強くする。

×上糸が強すぎると・・・・・・・・



上糸が布地の表面に直線上になる。
下糸が表に出る。
縫いちぢみがある。

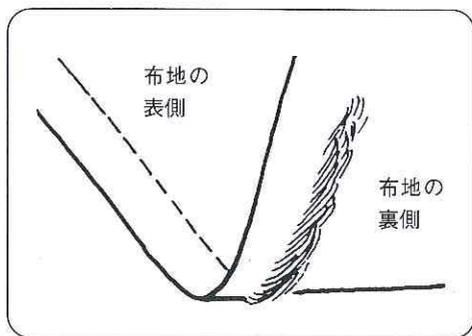


レバーを”-”の方に動かして糸調子を弱くする。

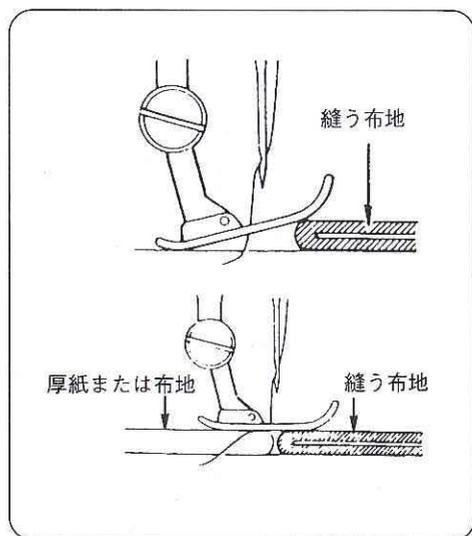
●下糸の調子は工場ですく調整されているので、ごく特殊な下糸以外は調整する必要はありません。もしどうしても調整が必要な場合、下糸調子を弱めるためにはボビンケースの向って左側の小ねじを左に回し、強めるためには小ねじを右に回します。

〈こんな場合は・・・〉

●布地の内側がタオル地のようになるのは・・・
右図のように布地の表側は普通に縫えて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子がよわいか上糸のかけかたがまちがっています。9ページをごらんの上、正しくかけなおしてください。

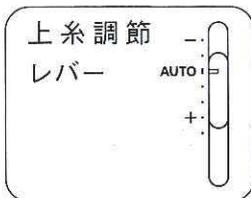


●厚地を布はしから縫うときは・・・
右図のように、押えが傾いて布地がスムーズに送られず、縫えません。このようなときは、使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙を押えの下にあてがって縫いはじめてください。



●基本ジグザグ縫い

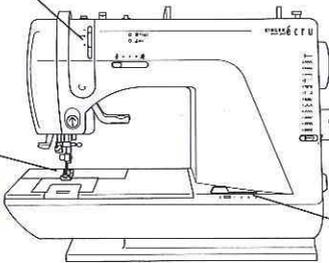
〈ミシンを合わせましょう〉



模様選択ダイヤル
 ダイヤルを回して $\wedge\wedge$ (2)
 $\wedge\wedge\wedge$ (3) 又は $\wedge\wedge\wedge\wedge$ (4)
 模様を表示窓に表示させます。

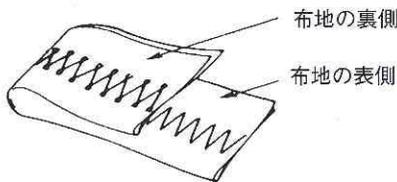
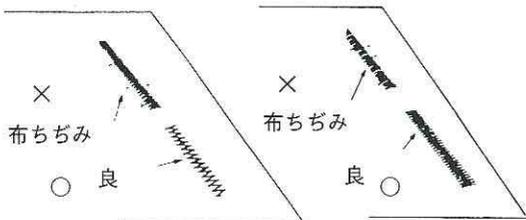


送り調節レバー
 指示線をお望みの数字に合わせて縫い目の長さをきめます。
 0. 5から1の間はサテン縫い
 (目のこまかなジグザグ縫い)
 ができます。



〈上糸調子のとりかた〉

直線縫いのときより上糸調子をやや弱めにしてください。



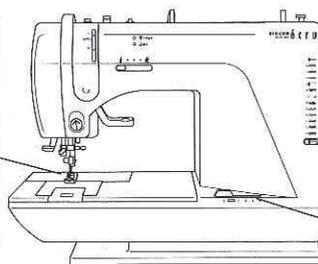
布の裏側に上糸が少しでる
 くらいに糸調子を調節する
 ときれいに縫えます。

6. いろいろな縫いかた

ふちかがり縫い（たち目かがり）

ズボン、スカートなどの縫いしろやほつれを防ぐ縫いかたです。裏地をつけない肩、股上股下、袖下などにも利用できます。

〈ミシンを合わせましょう〉

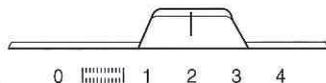


模様選択ダイヤル

ダイヤルを回して $\wedge\wedge\wedge$ (1 2) または $\wedge\wedge$ (2) 模様を表示窓に表示させます。

送り調節レバー

$\wedge\wedge$ (2) で縫うときは1から3の間
 $\wedge\wedge\wedge$ (1 2) で縫うときは最大 (4 前後) に合わせます。



注意：けが防止のために；

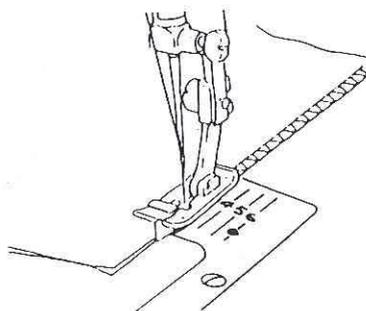
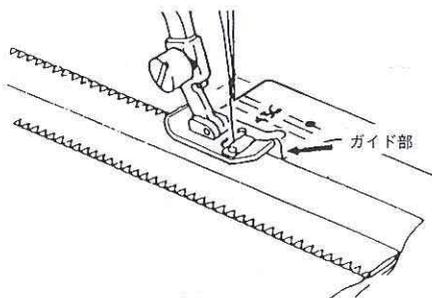
- ふちかがり押えは必ず $\wedge\wedge\wedge$ (2)、 $\wedge\wedge\wedge$ (1 2) だけにご使用ください。
- $\wedge\wedge\wedge$ (1 0) には必ずジグザグ押えを使用してください。

〈縫いかた〉

布はしをまっすぐにふちかがり押えのガイド部に布はしをぴったりあててかがります。布はしがカールすることなく、まっすぐきれいに縫えます。

布はしの始末 ($\wedge\wedge\wedge$ (2) 模様)

合わせ縫いとふちかがり ($\wedge\wedge\wedge$ (1 2) 模様)



- 糸調子は上糸と下糸が布地の裏側で交差するように調整してください。
- 薄い布地の場合は布はしを2つ折りにするときれいに縫えます。

まつり縫い（ブラインドステッチ）

布地の表側に縫い目が見えないように縫う方法です。この縫い目はズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンの端の折り返しなどに利用できます。

〈ミシンを合わせましょう〉

●布地の裏・表を、まちがえないように注意してください。

模様選択ダイヤル

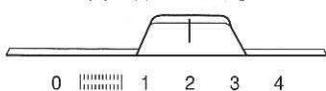
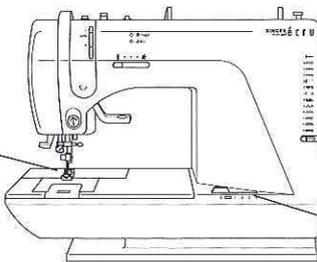
ダイヤルを回して $_/_/_$ (9) 模様を表示窓に表示させます。

送り調節レバー

レバーの指示線を 1 から 3 の間に合わせます。



ジグザグ押え

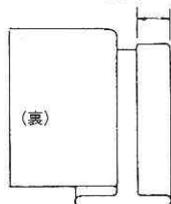


〈布地の折りかた〉

下図のように布地を折ります。

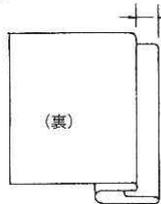
●薄地の場合

0.7~1センチ



(裏)

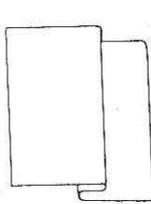
0.3~0.4センチ



(裏)

●普通地および厚地の場合

0.5~0.6センチ



(裏)

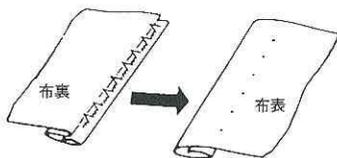
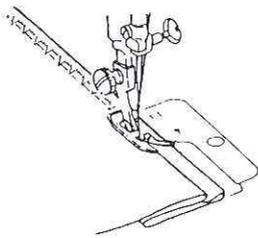
〈縫いかた〉

- ① 布地の裏側を上にして布地を図のように三つ折りにします。
- ② 左に落ちる針が上の折り山にわずかにかかるように縫います。
- ③ 縫い終わったら布地を表側にひろげます。

3ミリほどつきでる
(薄地の場合)



布裏



布裏

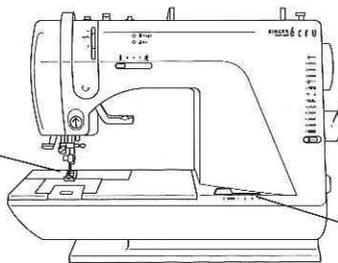
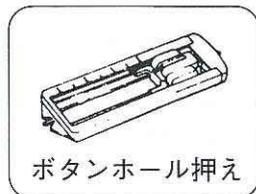
布表

●左側に落ちる針が必要以上にかかりすぎると布が開かず、表側に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上がりにません。

ボタンホール縫い

お望みのボタンホールを4つのステップで簡単に作ることができます。

〈ミシンを合わせましょう〉

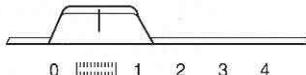


模様選択ダイヤル

ダイヤルを回して「7」の模様を表示窓に表示させます。

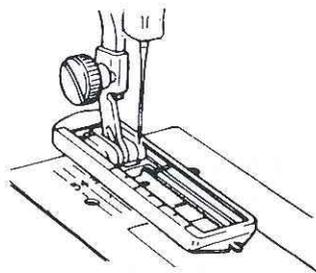
送り調節レバー

レバーの指示線を「0」の目盛りに合わせます。

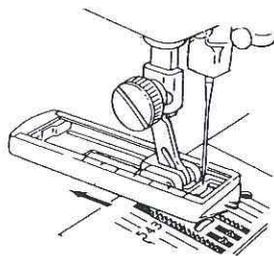


〈準備〉

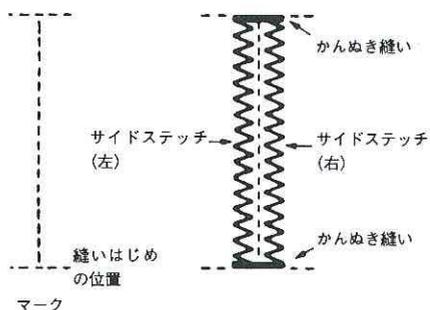
1. ボタンホール押えを取りつけます。



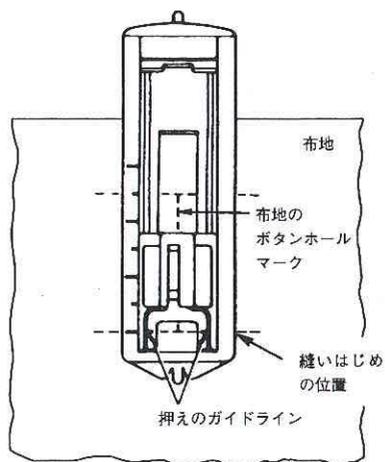
- 普通の押えをはずし、ボタンホール押えを赤い目盛りが左側にくるようにして取りつけます。(交換のしかたは12ページをごらんください。)



2. ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。ボタンの直径+厚み、これを布地にマークします。



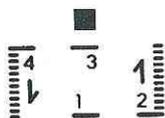
3. 布地を押えの下におき、押えの赤いガイドラインを布地のボタンホールマーク（縫いはじめの位置）に合わせて押えを下げます。



- ミシンのスピードはゆっくりと縫ってください。
- ボタンホールを縫う前に、同じ布のはぎれで必ず試し縫いをしてください。
- ごく薄い布地を縫うときは、裏地に薄い紙をあてるか、または布と布の間に芯地を入れて縫いますと布地の伸びちぢみを防ぎます。

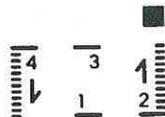
〈模様選択ダイヤル〉

ステップ 1



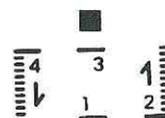
模様選択ダイヤルを回してボタンホール「1」を表示させ、スタートボタンを押し、4～5針かんぬき縫いをして、ミシンを止めます。

ステップ 2



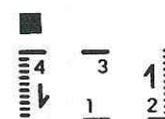
ダイヤルを回して「2」を表示させ、スタートボタンを押し、ボタンホールの右側をボタンホールの長さまで縫い、ミシンを止めます。

ステップ 3



ダイヤルを回して「3」を表示させ、スタートボタンを押し、4～5針かんぬき縫いをして、ミシンを止めます。

ステップ 4



ダイヤルを回して「4」を表示させ、スタートボタンを押し、左側を縫いはじめの線まで縫い、ミシンを止めます。

〈縫いおわりましたら〉

布地を外して糸を切り、シームリッパーで縫い目を切らないようにボタン穴を切りひらきます。

なお、ボタンがボタン穴を自由に通るかどうかをたしかめてください。

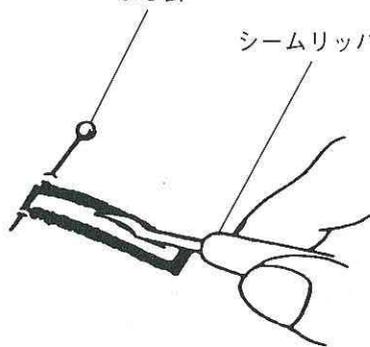
かん止めのところにまち針を刺しておく、切り過ぎがありません。



注意：ケガ防止のために；シームリッパーで穴を開けるときの、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったとき、ケガの原因となることがあります。

まち針

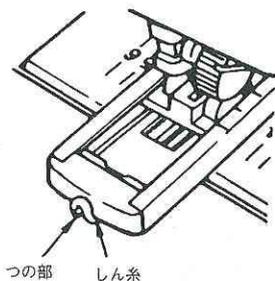
シームリッパー



〈しん糸入りボタンホール〉

伸縮性のある布地や、丈夫なボタンホールに・・・・・・・・

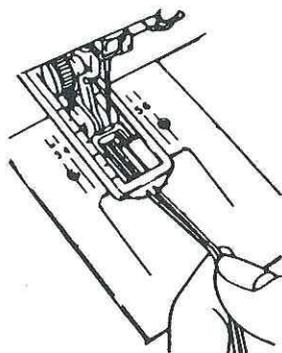
①



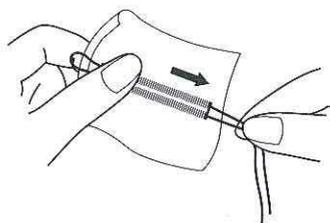
① しん糸をボタンホール押えのうしろのつの部にひっかけて・・・・・・・・

縫い終わりましたら、しん糸を押えのつのからはずし、布地をミシンからはずして、図のようにしん糸の両端をひいてたるみをなくし、余分のしん糸を切りとります。

②



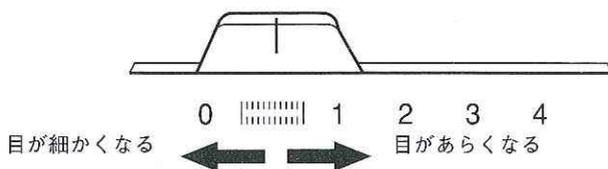
② 押えの下から手前にひき、切りこみにしっかりはさんでひものはしを軽くもって縫います。



〈縫い目のあらかさの調節〉

ボタンホールの縫い目のあらかさを調整するには

- 縫い目を細かくするには送り調節レバーを左の方へ動かします。
- 縫い目をあらくするには送り調節レバーを右の方へ動かします。

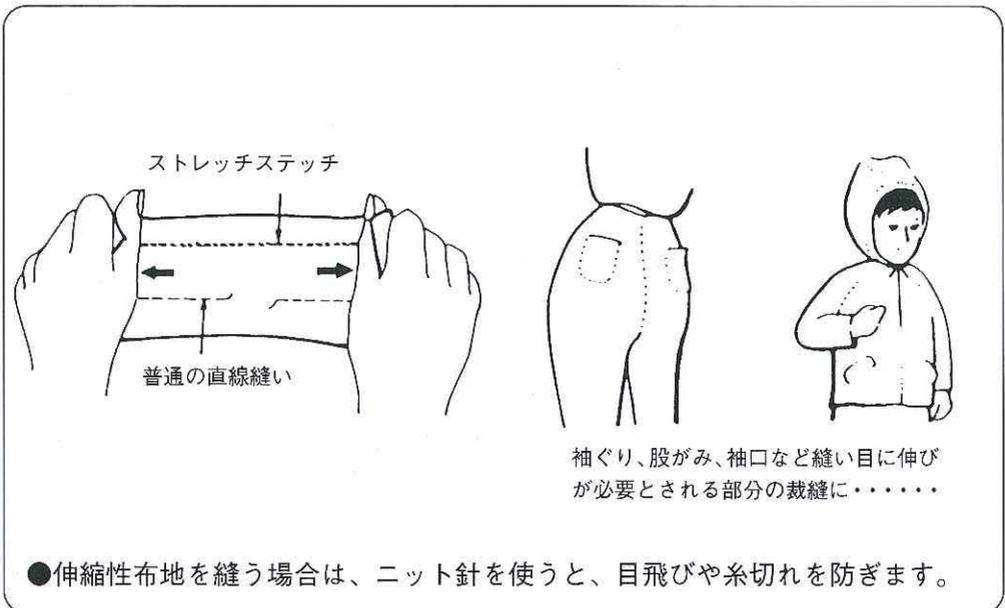
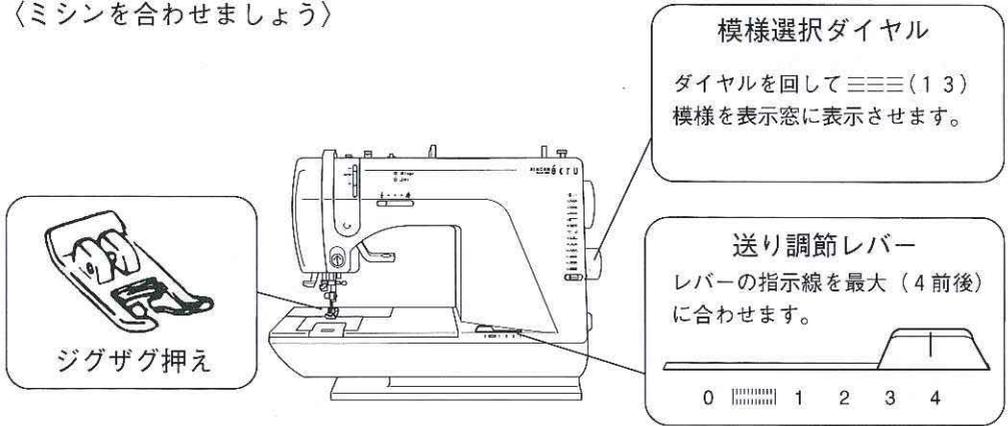


伸縮縫い（ストレッチステッチ）

この縫い目は伸縮性があるのでニットやジャージなど伸縮性に富んだ布地の裁縫に適しています。

また、この縫い目はひっぱられても糸が切れないため、とくに強くひっぱられるようなところ、たとえばズボンの股下や股上、肩はぎ、ポケットのはしなど丈夫に縫いたいところに最適です。

〈ミシンを合わせましょう〉



ファスナーつけ

〈ミシンを合わせましょう〉

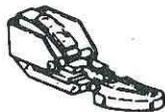
模様選択ダイヤル

ダイヤルを回して0----(1)模様を表示窓に表示させます。

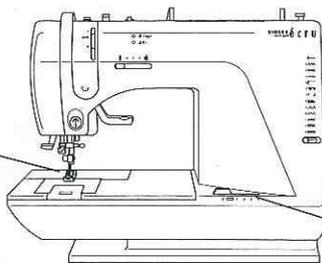
送り調節レバー

レバーの指示線を1から3の間に合わせます。

0 1 2 3 4



ファスナーつけ押え

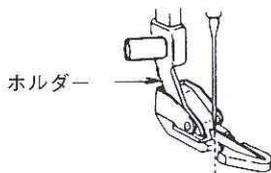


注意：ケガ防止のために；

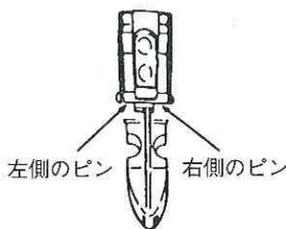
ファスナーつけ押えは必ず0----(1)だけにご使用ください。

ほかの模様では、針が押えにあたり、針が折れ、ケガの原因となることがあります。

〈ファスナーつけ押えの取りつけかた〉

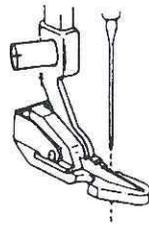


ホルダー



左側のピン

右側のピン

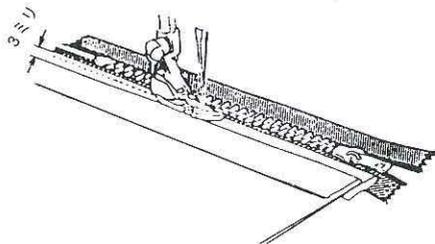


ファスナーの右側を縫うときは押えのホルダーを左側のピンに取り付けます。左のみぞに針を落とします。

ファスナーの左側を縫うときは押えのホルダーを右側のピンに取り付けます。右のみぞに針を落とします。

〈縫いかた〉

縫い代を3ミリ持ちだし、その下にファスナーをおきます。押えとファスナーの歯が平行になるように縫います。



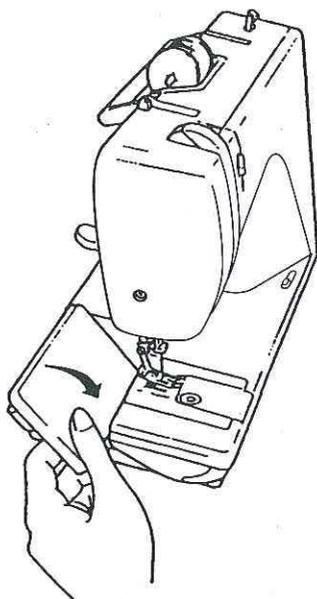
フリーアーム縫い（筒もの縫い）

袖口やスリーブ、ズボンなど筒状のものや袋物など縫いにくいところを縫うのにフリーアーム（筒型ベッド）を利用すると布地の扱いが簡単になり、大変便利です。

フリーアームにするときには、図のようにプレートをおし下げます。

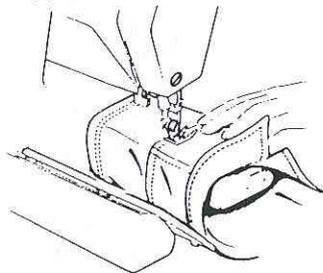
普通の縫いにもどすときは、プレートをパチンととまるまでもちあげます。

- 付属品箱を左側に引き抜いてプレートをおし下げます。

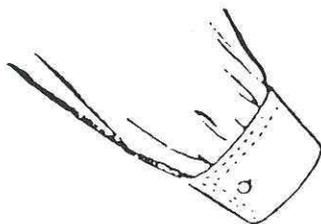


フリーアームはこんなところにご利用ください。

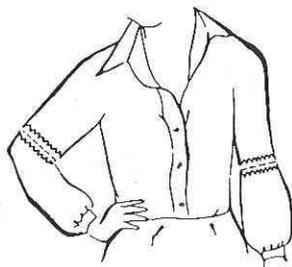
袖つけに・・・・・・・・



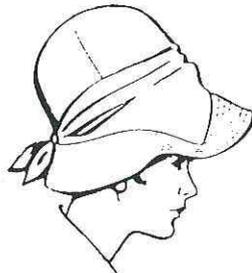
袖口の飾りステッチに・・・・・・・・



ブラウスの袖の飾り縫いに・・・・・・・・



帽子の縁飾りに・・・・・・・・



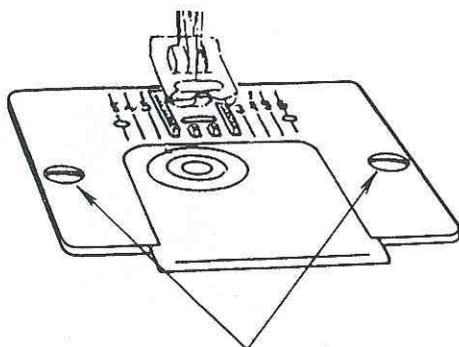
7. ミシンの手入れ(いつも調子よく)

〈掃除と注油〉

⚠ 警告：感電、ケガ防止のために；
掃除の前には必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●針板のはずしかた

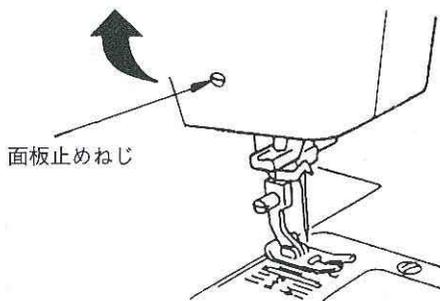
両側2つのねじをゆるめて、針板をはずします。



止めねじ

●面板のはずしかた

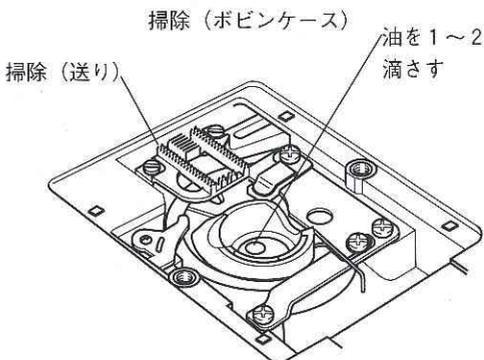
面板止めねじをゆるめてはずし、面板を取りはずしてください。



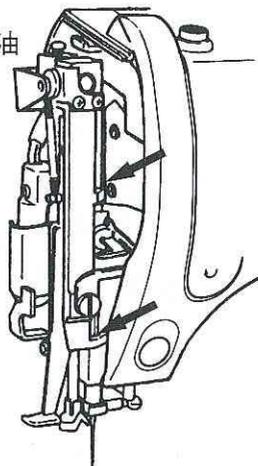
面板止めねじ

●ボビンケース

針板をはずして送り歯やかまのまわりを掃除してください。



●面板内部の注油



このミシンは、特に注油の必要はありませんが、数カ月以上ご使用にならないときは、上図の矢印のところに1~2滴油をさしておいてください。

〈ボビンケースのはずしかたと入れかた〉

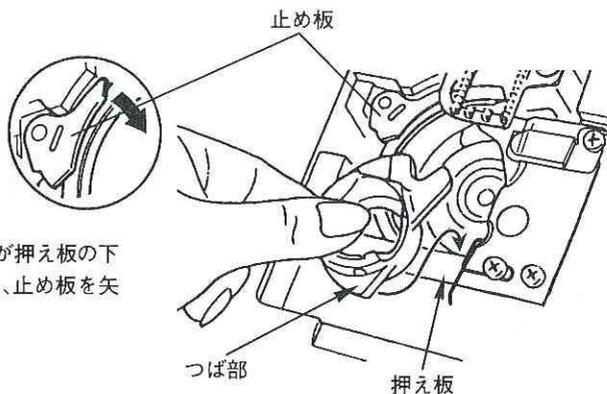
〈はずすときは・・・・・・・・〉



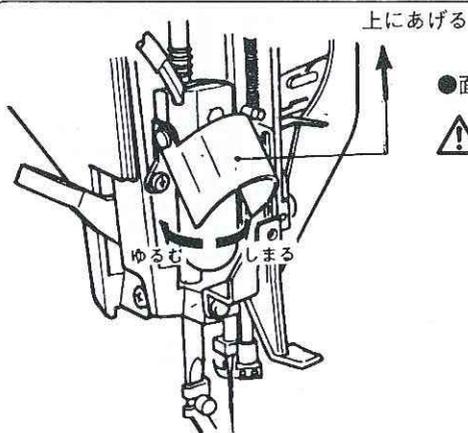
針をあげ、スベリ板をひらき、針板をはずし、ボビンを取りだします。ボビンケース止め板のみぞにねじ回しをあてて止め板を矢印の方向にねじり、ボビンケースを左にねじって取り出します。

〈入れるときは・・・・・・・・〉

図のようにボビンケースをもってつばが押え板の下に入るようにしてボビンケースを入れ、止め板を矢印の方向にもどして固定します。



〈電球の取りかえかた〉



● 面板を取りはずしてください。



注意：ケガ防止のために；

長時間使用しているとランプが熱くなり、やけどをする恐れがあります。電球を取りかえる前に電源プラグを抜いて、ランプが十分冷えてから交換してください。

電球は、お買い上げの販売店等でお求めになれます。その際は、古い電球をお持ちになり、同一の電球（100V 15W）とご指定下さい。

8. こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照 ページ
布地の裏側がタオル地のようになる	<ul style="list-style-type: none"> ●上糸のかけかたがちがっている ●上糸調節レバーが最上点になっている 	正しく通します。	9 17
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ●細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使っている ●針の取りつけかたが悪かったり、曲った針を使っている ●布地を無理にひっぱっている ●針止めねじがゆるんでいる ●針が布地にささっているときに模様選択ダイヤルを動かしている ●押えがゆるんだりして針にあたっている 	正しい針と取りかえます。 手は布地が曲がらないよう導くだけ。 ねじをしっかりとしめめます。 必ず針を上げてから動かします。 押え止めねじをしっかりとしめめます。	12,14 12 — 12 — 12
糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ●上糸のかけかたがちがっている ●針が曲がっていたり、先端がつぶれている ●針が糸の太さと合っていない ●上糸の調子が強すぎる ●針の取りつけかたがちがっている ●ボビンケースのまわりに糸くずやごみがたまっている ●ボビンがボビンケースに正しく入っていない ●糸巻きのつばについている切りみぞを左側にセットしている 	正しく通します。 正しい針と取りかえます。 ”針と糸と布地の関係”参照 ”上糸調子のとりかた”参照 掃除をします。	9 12 14 17 12 30 8 7,9
縫い目かとぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●針が曲がっていたり、針先がつぶれている ●針が糸の太さと合っていない ●上糸のかけかたがちがっている ●針がしっかりと取りつけられていない ●針・糸・布の素材が合っていない 	正しい針と取りかえます。 ”針と糸と布地の関係”参照 正しく通します。 しっかりと取りつけます ”針と糸と布地の関係”参照	12 14 9 12 14

不調の状態	原因	処置	参照 ページ
布地を送らない	●送り調節レバーの指示線が0の位置にある	指示線を1の方へ近づけます。 掃除します。	15
	●針板と送り歯の間にほこりがついている		29,30
	●専用のポピンを使っていない	専用のポピンを使う。	4
布地が縮む	●上糸の調子がつよすぎる	”上糸調子のとりかた”参照 正しく通します。	17
	●上糸のかけかたがちがっている		9
	●布地と縫い目の長さが合っていない		14
下糸が巻けない	●上糸が糸立棒からスムーズにほぐれない	”ポピン(下糸)の巻きかた”参照 専用のポピンを使う。	7
	●専用のポピンを使っていない		4
ミシンの回転が重い、音が高い	●油がきれている	掃除します。	29
	●送り歯にごみがたまっている		29,30
	●カマの部分に糸くずが巻きこまれている		29,30
ミシンが動かない ・下糸巻きランプ みどり点灯 ・押えランプ赤点 灯	●ミシンのプラグコードがコンセントにさしこまれていない	しっかり差し込みます。 スイッチを入れます。 左へもどします。	5
	●ミシンの電源スイッチが入っていない		6
	●糸巻き軸が右へ押されている	押えを下げます。	7, 8
	●押えが上がっている		15
	●スタートボタンをおさない		6

この項目に記載されている項目以外の不調または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店又は「お客様相談係」(裏表紙参照)におたずねください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をよくお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」宛お申し越し下さい。

●修理部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災など天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
 3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

140年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

SINGER
シンガーミン